

熟練の技DXで伝承

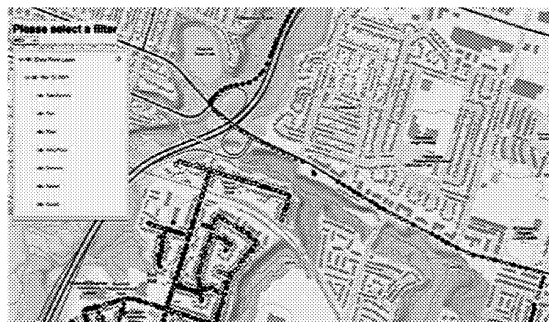
アイフォークムが提供

情報システム開発のアイフォークム（相模原市）はデジタルトランスフォーメーション（DX）対応の商品を拡充する。作業現場での技術の伝承と道路管理の監視システムをそれぞれ開発した。コロナ禍で中小企業でもDXを進める動きが高まっていることから、コンサルティング業務も請け負っていく。

「伝承システムDX」する。動画とマニュアルは熟練作業員に装着したカメラに詳しい専門家のカメラのデータを基に工協力を得て作成。部品加場の作業現場での行動を工の場合、研磨する際の把握し、20分ほどの動画目線や削った際の色合いによるマニュアルを作成など作業をする上での重



伝承システムDXを使えば、熟練作業員のノウハウをいつでも学ぶことができる



アイリスシティは異常のあった箇所を自動で検知できる

要なポイントを洗い出し、文字情報と合わせて紹介する。

作業員はいつでも学習できることから、熟練作業員の負担軽減につながる。作業工程ごとにノウハウを登録することにより、細かく作業をチェックすることが可能になる。毎日の作業項目と生産目標、成果を入力する生産管理システムを付け加えることもできる。

多くの作業現場では簡単なマニュアルしかなく、現場で熟練の作業員が対面で技術指導にあたっていているのが現状だ。技術の急速な変化や労働力の高齢化、熟練労働者の不足に対応した。

試験的に導入したエンジンメーカーでは月の作業時間の12%削減につながったという。1つの作業工程でシステムを導入すれば、他の工程を自社で作成することも可能。料金は500万円から。

道路管理などのインフラメンテナンスサービス「アイリスシティ」はカ

データのアイリス社と共同開発し、自治体向けに売り込む。道路の状況の正常なデータをを入力し、地域を巡回するゴミ収集車や自治体所有の自動車にデータコレクターを設置して活用する。人工知能（AI）のアルゴリズムを利用し、道路の路面や道路標識、路面標識、消火栓の破損など異常が発生した箇所を自動的に検知する。定位置に設置すれば、歩行者の通行量、イベントの気象監視にも利用できる。これまで自治体の道路管理は職員らが巡回してチェックしたり、住民からの通報に依存したりしていたため、需要が見込める。同社はこれまで在宅勤務者の状況を遠隔から把握する見守りシステムや医療機関向けのデジタル問診票システムを手掛けている。